

逆流性食道炎と関連したバレット食道と言う病気をご存知でしょうか

昨年10月末、日頃胃カメラ検査

の危険因子にもなります。

でお世話になっている病院で当院

☆バレット食道患者の食道腺癌

患者さん2人が、バレット食道と

発生率

診断されました。あまり、知られて

ここに、デンマークで発表され

いない病名ですが、癌化も考えら

たデータがあります。数百人規模

れると言われました。食道の粘膜

の、決められた一定の施設でバ

は、健康な状態では扁平上皮と呼

レット食道患者を経過観察し、そ

ばれる組織形態をとっています。

の患者の食道腺癌発生率をみると、

しかし、食道の粘膜が慢性的に胃

年間0.5%前後とされてきまし

酸にさらされると、胃から連続的

た。しかし、もっと大きな一般集団

に円柱上皮と呼ばれる組織形態

での調査を行ったところ、バレッ

(バレット上皮)に変化してしまっ

ト食道患者の腺癌発生率は年間

ことがあります。この上皮をもつ

0.2%と、これまでの報告と比

食道をバレット食道と呼び、食道

べ数倍低いと報告されています。

腺癌に移行することがあります。

この論文以外にも、最近の研究報

告の傾向として、バレット食道患

者の腺癌発生率は、当初の指摘よ

り低いと言いつ報告が多いようです。

つまり、多くのバレット食道と診

断された患者さんが食道癌になる

確率は低いようです。しかし、かと

言って安心して放置するのではな

く、バレット食道の患者さんは、定

期的な医師の診察と検査を受け

るべきです。

ます。

食道癌は食道の悪性腫瘍の代表

(2)肥満・肥満もバレット食道の危

険を増加させます。肥満した人は

胃食道逆流を起こしやすいため

癌の90%以上は扁平上皮から発生

す。種々のメカニズムで食道腺癌

する扁平上皮癌で、胸部中部から

下部食道に多く発生します。欧米

ではこの30年ほどで、扁平上皮癌

の頻度が減少し、バレット上皮か

ら発生する腺癌が食道癌の多くを

占めております。日本でも今後腺

癌が増加する可能性があります。が、

まだ疫学的にみてもはっきりと増

加しているとは言えない状況です。

☆バレット食道の診断と検査

現在、バレット食道そのものに

対する有効な治療法はありません。

又、バレット食道からの発癌を抑

制する有効な方法もありません。

しかし、逆流性食道炎は容易に診

断できますので、バレット食道癌

を早期発見するためには、バレッ

ト食道を確認することが重要です。

それには内視鏡検査が必要です。

つまり、胸焼けなどの逆流性食道

炎の症状のある方はまず内視鏡検

査を受け、バレット食道の有無を

診断してもらうことが第一です。

そして、バレット食道と診断され

たら、なるべく早く異型上皮や食

道癌への進展を発見できるよう、

消化器専門医の定期的な内視鏡検

査と生検を受診すべきでしょう。